

第五十一回帝國議會
衆議院

關稅定率法中改正法律案(政府提出)委員會會議錄(速記)第十六回

會議

大正十五年二月二十三日(火曜日)午前
十時二十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 加藤政之助君

理事 永田善三郎君

理事 吉津 度君

理事 岩切 重雄君

橋本 喜造君

神部 爲藏君

工藤 鐵男君

來栖 七郎君

堀切善兵衛君

竹内友治郎君

星島 二郎君

田中 隆三君

沼田嘉一郎君

岡田 溫君

同月二十三日委員山内範造君辭任ニ付
其ノ補闕トシテ森恪君ヲ議長ニ於テ選
定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

商工大臣 片岡 直溫君

出席政府委員左ノ如シ

外務政務次官男爵 矢吹 省三君

大藏省主稅局長 黒田 英雄君

大藏技師 矢部規矩治君

商工政務次官 柵瀬軍之佐君

商工省工務局長 宮内國太郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ
如シ

商工省鑛山局長 三井 米松君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

關稅定率法中改正法律案(政府提出)

○加藤委員長 是ヨリ關稅定率法中改

正案ノ委員會ヲ開キマス、ソレデ前日

ニ引續イテ質問ヲ開始シマス——太田

信治郎君

○太田委員 私ハ工藤鐵男君カラ先日

ノ委員會ニ於テ、大臣ニ御質問ニナリ

マスル事柄ニ付テ、同一事項デアアルカ

ラ其時ニ讓ルコトニ致シマシタガ、今

工藤君モ御居デニナリマセヌカラ、此

問題ヲ後ニ致シマシテ、四百六十二ノ

「ワイヤロッド」ノコトニ付テ御伺致シ

マス、此事タルヤ先達沼田君ヨリ御質問

ノアツタ時ニ、速記録ニ就テ見ルヤウニ

ト云フ御話デアリマシタガ、今朝九時

ニ來テ取調ベマシタガ、マダ速記録ガ

出來テ居リマセヌ、ソレデ同ジ事ヲ繰

返スコトヲ避ケテ、現物ニ就テ標本ヲ

御目ニ懸ケテ、政府ノ御所見ヲ伺ヒ、合

セテ委員諸君ノ御參考ニ供シタイト思

ヒマス、左様御承知ヲ願ヒマス、ドウカ

政府委員、竝ニ委員諸君ニ於テ御覽ヲ

願ヒマス——是ハ船舶及漁業上關係ノ

アルモノデ「ワイヤロッド」デアリマス

○加藤委員長 サウ云フコトハ委員會

ノ規則ニ反シマスカラ止メテ戴キマ
セウ、甚ダ御氣ノ毒デアリマスケレド
モ……

○太田委員 此「ワイヤロッド」ノコト

ニ付テ只今御參考ニ供シマシタガ、要

スルニ是ハ價格ノ高低ノ甚シイモノデ

アリマシテ、ソレガ爲ニ、單ニ量目ヲ以

テ之ヲ計算スルコトハ甚ダ不公平ナコ

トニ相成ルノデアリマス、是ハ只今標

本デ御示シヲ致シタ如ク、物ニ依テハ

此算定ノ基礎トナル所ノ從價ニ割三分

ニ當ルモノモアリマスルケレドモ、高

級品ニナリマスレバ價格ガ上リマス、

サウスルト此ニ割三分ノモノガ或ハ八

分ニナリ、或ハ六分ニナルノデス、從價

ニ換算スルト六分、又ハ八分ニナリマ

ス、一面「ワイヤロッド」ヲ造ル所ノ原料

ノ線ノ關稅ハ從價ノ一割八分デアリマ

ス、サウスルト線ヲ以テ造ツタ所ノ、寧

ロ中間原料デナイ、製造品ガ中間原料ヨ

リモ廉イ稅ニ付クト云フコトノ不公平

ガアリマスカラ、之ヲ從量ト云フコト

デナク、從價ニナサツタ方ガ合理的デア

ラウト思ヒマス、尙ホ前ニモ御質問ガ

アツタカ知レマセヌガ、線ト「ロッド」ト

比較シテ此十一ノ「ワイヤロッド」ノ從

量稅ト云フノハ、全ク根本ニ於テ間違ッ

テ居ルト信ジマス、而シテ又此率ノ二

割三分ト云フノハ、何ヲ標準トシテ御

掛ケニナツタカ知ラヌケレドモ、吾ミノ
信ズル所ニ依ルト、此線ニ比較スルト
大體ニ於テ二割三分ト云フ從量稅ヲ掛

ケタノデ基本ガ低イケレドモ、ソコヘ

以テ來テ尙ホ且ツ從量稅ノ爲ニ、高級

品ノ率稅ガ少クナルト云フコトハ産業

保護ノ上カラ見テモ製品ノ課稅ニ重ク、

原料ノ課稅ヲ輕クスルト云フ趣旨カラ

不合理デアルト思ヒマスカラ、此點ニ

付テ御伺致シマス

○矢部政府委員 此種ノ製造業ハ我國

ニ於テ舊クカラ行ハレタモノデアツテ、

他ノ製造業カラ見ルト餘程進ンデ居ル

ノデアリマス、ソレ故ニ官民共ニ之ニ

注意シテ保護ヲ致シテ居ツタヤウナ譯

デアリマス、尙ホ鑛塊鑛カラシテ「ワイ

ヤロッド」ヲ線ニ引キ、之ヲ綯合ハシテ

線索ナルモノガ出來ルト云フノデ、工程

ヲ重ヌルコトガ多イ所カラ割合ニ多ク

課ケラレマシテ、其結果相當ニ發達シ

テ居ルノデアリマス、今度改正案ヲ作

ルニハ他ノモノヨリモ多少重キヲ置キ

マシテ「ワイヤロッド」ノ一割八分ニ對

シテ、二割三分、即チ五分ノ差ヲ置イタ

ヤウナ譯デアリマス、ソレカラ從量稅

ト從價稅ニ付テノ御議論ガゴザイマシ

タガ、原料ハ從量稅ノ方ガ、内地ノ製造

業者ニ對シテ宜イヤウニ見ヘマス、内

地ノ生産ハ相當ニアツテ輸入額モ此所

ニアリマスガ御覽ノ通り七十一萬圓、内地ノ生産ノ方ガ遙ニ多イ、ソレニ對シテ安心ノ出來ナイノハ獨逸品ノ廉イ製品ガ這入ッテ、之ガ邪魔ヲ致シマスカラ、之ヲ防グノ目的トシテ、從量稅ヲ作ッタノデ、此五圓五十錢ハ廉イモノニ對シテ、防備トナリソレカラ、上等品ノ日本ニ出來ナイモノニ對シテハ此輸入稅便宜カラウ、内地ノ物ニ對シテハ相當ノ保護ニナッテ居ル積リデアリマス

○太田委員 獨逸カラ安イ物ガ入ッテ來ルカラ、ソレヲ防グ爲ニハ從量稅ガ必要デアルト云フコトハ吾ミモ否ミマセヌガ、ソレヲ防グニハ前ニアル所ノ線ト同一ナ運命ヲ持ッテ居ル「ロップ」ニノミ從量稅ヲ課シテ、ソレガ防ゲルト云フコトハ如何デアルカ、ソレカラ高級品ガ多少輸入サレル、輸入サレルト云フコトハ宜シイガ、サウスルト日本ハ高級品ヲ作ルコトガ出來ナクナッテ、下級品バカリ作ッテ満足シロト云フヤウニ聞エテ甚ダ不穩當デアル、寧ロ此「ロップ」ハ將來益高級品ノ必要ヲ感ズル時代ガ來テ、高級品ヲ内地ノ生産ニ於テ能率ヲ増進セシメナケレバナラヌト思ヒマスガ、左様ナ意味カラ言ッテモ此高級品ノ稅率ヲ特ニ安クスルト云フコトハ、八分トカ七分トカノ稅率ニスルト云フコトハ、一方ニ對シテ非常ニ不權衡ヲ生ズル、是ハドウシテモ從量稅ニ付テハ免ルベカラザル事デアル、故ニ本來カラ云ヘバ從價稅ハ宜シイノデア

ル、而シテ此「ロップ」ノ如キ高級品ハ細イ小サイモノヲ組合ハシテ一ツノモノヲ作ルノデ、之ヲ從量稅ニナサツタ根據ハ單ニ高級品ニ對シテ成ベク關稅ヲ安クシテ、高級品ヲ外國カラ入レテ、内地ノ下級品ヲ保護スルト云フ趣旨デアルトスレバ、此從量稅ト云フコトガ當ルカモ知レマセヌガ、左様ナ趣旨デ從量稅ヲ課セラルルト云フコトハ、甚ダ當業者ハ迷惑致スデアラウト思ヒマス、其點如何デスカ

○矢部政府委員 御話ハ御尤デゴザイマス、現在ニ於キマシテハ、此稅率ヲ以テ致スノガ生産業ニ對シテ事情ニ適シタル措置ト思フノデアリマス、併ナガラ何時マデモノ之ニ固着シテ居ルト云フ譯デハナイ、時勢ノ變遷ニ隨ヒマシテ尙ホ産業ノ發達ニ適應スル爲ニ、此從量稅ヲ段々變化サシテ行クト云フコトモ差支ナイノデアアッテ、將來永ク之ニ固着スルト云フ譯デモアリマセヌ、段々御趣旨ニ副ウヤウナコトハ出來ナイコトハナイト信ジテ居リマス

○太田委員 左様致シマスレバ、要スルニ此從量稅ヲ當局ハ飽迄モ固執スルト云フ意味デハナイ、斯様ニ了解シテ宜シウゴザイマス

○矢部政府委員 只今ノ御答ヲ從量稅ヲ變更シテ從價稅ニ直スト云フヤウニ御了解ニナッタヤウデアリマスガ、私ノ意味ハサウデハナイ、從量稅デアリマ

スガ、其從量稅ヲ尙ホ更ニ内地ノ産業ニ適應スルヤウニ段々變化シテ行ク、中デ分ケルトカ、或ハ從量稅ヲ上ゲルトカ云フヤウナ事ニ依テ、段々ニ進歩サセルコトガ出來ル、斯ウ云フ風ニ御了解ヲ願ヒタイ

○太田委員 ソコマデ政府委員ガ御了解下サルトスレバ、更ニ進ンデ此中ヲ分類シ、複雑ナル從量稅ヲ課スルヨリハ、私ハ之ヲ從價稅ニ引直スコトガ穩當デアルト考ヘルノデアリマス、併シ是レ以上ノコトハ議論ニナリマスカラ、先ヅ此點ニ止メマシテ、此見本ヲ政府ニ提供致シマスカラ、更ニ御熟考ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ先刻保留シテ置キマシタ四百六十二ノ銑鐵ノコトニ付テ、一寸私ハ質問致シタイト思ヒマスガ、此際差支アリマセヌカ

○加藤委員長 差支アリマセヌ

○太田委員 此銑鐵ノ關稅ニ付テハ先達大臣カラ御説明ガアリマシタノデ、多少了解シタ點モアリマスガ、尙ホ念ノ爲ニ一遍御伺シテ置キタイト思フコトハ、此銑鐵ノ關稅ニ付テハ商工省ハ鐵ノ自給自足ヲ圖ル爲ニ、一噸ニ付十圓ノ課稅ヲスルト云フ原案ヲ作ッタノデアアル、然レニ閣議ニ於テ之ガ否決ニナッタ、ソコデ此原案ガ提案セラレタモノデアアル、斯様ナコトガ「パンフレット」ニ出テ居ル、私ハ斯様ナコトノ眞偽ヲ問フ必要ハアリマセヌガ、斯様ナ事柄ニ付テ此鐵ノ自給自足ヲ圖ルト云フコトハ、大切ナル事柄デアアリマスルケ

レドモ、併ナガラモウ一步進ンデ現在鐵工業ニ從事シテ居リマスル者モ、其數ハ實ニ三十萬以上ニナッテ居ル、此鐵工業ニ從事シテ居ル者ガ銑鐵ノ關稅ガ引上ゲラレル結果トシテ——銑鐵關稅ガ引上ゲラレル結果トシテ、機械ノ關稅ガ相當ニ引上ゲラレナイナラバ、機械工業ト云フモノハ非常ナ打撃ヲ蒙ル事ニナルト思フ、ソレデアリマスカラ若シ銑鐵ノ關稅ヲ引上ゲルト云フコトガアルト致シマスレバ、先ヅ其前提トシテ、先決問題トシテ機械類及鐵ノ製品ニ付テモ關稅ヲ更ニヨリ以上引上ゲナケレバナラヌト云フコトガ、先決問題デアラウト思フノデアリマス、左様ナ意味カラスルト、又今度消費致ス所ノ消費者、若クハ此機械ヲ利用スル所ノ生産業者ガ固定資金ヲ増大致シテ、其結果トシテ大變内地ノ産業ニ影響ヲ及ボス次第デアルガ、政府ハ銑鐵ノ關稅ヲ引上ゲナイ方ガ私ハ無論宜イト思ヒマスクレドモ、左様ナ坊間ノ噂ニ依ルト云フト、或ハ私ノ伺ヒ違ヒデアッタカモ知レマセヌガ、先達岩切君ノ質問ニ對シテ、最近ニ於テ銑鐵ノ關稅引上ヲ爲ス意思アリヤ否ヤト云フヤウナ御質問ノヤウニ聞キマシタガ、ソレニ對スル御答辯ハ十分デナカッタヤウデア

ルガ、之ヲ要スルニ政府ハ他ノ方法ニ依テ銑鐵ノ自給自足ヲ云フ事ニ付テハ考慮中デアアル、故ニ銑鐵關稅ノ引上ト云フヤウナコトハ政府ニ於テ考ヘテ居

○太田委員 左様致シマスレバ、要スルニ此從量稅ヲ當局ハ飽迄モ固執スルト云フ意味デハナイ、斯様ニ了解シテ宜シウゴザイマス

○矢部政府委員 只今ノ御答ヲ從量稅ヲ變更シテ從價稅ニ直スト云フヤウニ御了解ニナッタヤウデアリマスガ、私ノ意味ハサウデハナイ、從量稅デアリマ

スガ、其從量稅ヲ尙ホ更ニ内地ノ産業ニ適應スルヤウニ段々變化シテ行ク、中デ分ケルトカ、或ハ從量稅ヲ上ゲルトカ云フヤウナ事ニ依テ、段々ニ進歩サセルコトガ出來ル、斯ウ云フ風ニ御了解ヲ願ヒタイ

○太田委員 ソコマデ政府委員ガ御了解下サルトスレバ、更ニ進ンデ此中ヲ分類シ、複雑ナル從量稅ヲ課スルヨリハ、私ハ之ヲ從價稅ニ引直スコトガ穩當デアルト考ヘルノデアリマス、併シ是レ以上ノコトハ議論ニナリマスカラ、先ヅ此點ニ止メマシテ、此見本ヲ政府ニ提供致シマスカラ、更ニ御熟考ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ先刻保留シテ置キマシタ四百六十二ノ銑鐵ノコトニ付テ、一寸私ハ質問致シタイト思ヒマスガ、此際差支アリマセヌカ

ラナイ、斯様ナコトニ了解シテ宜シイ
ノデアリマセウカ、ソレヲ一應伺ヒタ
イ

○榎瀨政府委員 銑鐵ノ關稅ヲ一噸十
圓マデ引上ケルト云フ民間ノ説ガアッ
タ、「パンフレット」ニ依テ承知シタト云
フコトデアリマスガ、是ハ全然間違デ
アリマス、ソレハ一噸十圓ニ引上ゲル
ト云フコトハアリマセヌ、併ナガラ或
程度ノ引上ゲラシタイト云フ希望ヲ以
テ協議ヲ致シマシタ、其内容ハ先日ノ
祕密會ニ於テ申上ゲタ通りデアリマ
ス、此所デハ其程度以上ハ申述ベマセ
ヌ、アノ當時ノ説明デ御承知下サタト
思ヒマス、尙ホ今後銑鐵ニ對シテ稅ヲ
引上ゲルカ引上ゲナイカト云フコトニ
付キマシテハ、只今ノ所デハ別途ノ方
法ニ依テ考慮シテ居ル、今ハ引上ゲル
ト云フ考ヲ持ッテ居ラヌト、申上ゲル
ヨリ外アリマセヌ

○太田委員 政府ノ御趣意ノアル所ハ
大ニ了解ヲ致シマシタガ、若シ將來左
様ナ場合ガ假ニアルト致シマシテモ、
此原料鐵ノ關稅ヲ引上ゲル場合ニハ、
更ニ鐵工業ノ製造品ニ向ッテ、ソレニ順
應シタル所ノ關稅率ヲ改正シナケレバ
ナラヌト云フコトヲ豫メ御含置ヲ願ヒ
タイト思ヒマス、此質問ハ是デ打切り
マス

○竹内委員 四百六十二ノ六ニ線トア
リマス所デ、從來ハ甲乙ニ分ッテ居リマ
シタ、此度ハ其區別ヲ撤廢シテ、一ニ爲
サッタノデアリマス、此亞鉛鍍ノ線ハ、
相當工業ガ發達シテ參ッタノデアリマ
ス、之ニ對シテハ産業上保護シテ然ル
ベキモノト吾々ハ考ヘテ居ルニ拘ラ
ズ、太田君カラモ端的ニ御質問ガアリ
マシタガ、原料ノ「ワイヤロップ」ト同ジ
稅ヲ御掛ケニナル、此亞鉛鍍ノ線ノ工
業ハ非常ナ打撃ヲ受ケヤシナイカト思
ヒマス、此點政府ノ御見込ハ如何デス
カ

○三井鑛山局長 只今ノ御質問ハ先日
沼田委員カラノ御質問ニ御答申上ゲテ
置キマシタ、格別此點ニ付キマシテハ
影響ハナイ積リデアリマス

○竹内委員 「アルミニウム」ニ付キ
マシテ、此原料ニ一割、極ク安イ稅ガ
掛ッテ居リマスガ、是ハ今日日本デ一モ生
産シナイモノデアリマスガ、ドウ云フ
御趣意ヲ以テ此稅ヲ御掛ケニナルノデ
アリマセウカ、此御趣意ハ近キ將來ニ
日本ニ此工業ガ出來ルモノト豫期セラ
レテ、此稅ヲ此儘御据置ニナル譯デア
リマセウカ、其點ヲ伺ッテ置キタイ
「是モ濟ンデ居リマス」ト呼フ
者アリ

○竹内委員 「アルミニウム」ノ工業
ニ對スル政府ノ御考ハサウ詳シク御述
ベニナッテ居ラナイヤウニ思ヒマスカ
ラ、伺ッテ置キタイ

○榎瀨政府委員 ソレデハ簡單ニ私カ
ラ御答申上ゲテ置キマス、アルミニウ
ムハ御尋ノ通り日本ニハマダ生産

ハナイヤウデアリマス、ソレニモ拘ラ
ズ尙ホ關稅ヲ其儘据置クト云フコトハ、
却テ不便デハナイカト云フ御趣意デア
ルト思ヒマス、御存知アルカモ知レマ
セヌガ、「アルミニウム」ノ研究ニ付
キマシテハ數年前ニ東京工業試驗所ニ
於テ、實驗室ノ試驗ガ濟ミ、其後其試驗
ノ結果ヲ受ケテ、日本輕銀會社ナルモ
ノガ設立サレタコトガアリマス、是モ
時甚ダ時機ニ適セナカッタモノト見エ
マシテ、採算上遂ニ引合ハヌト云フコ
トデ、其仕事ヲ中止セラレタヤウデアリ
マス、併シ仕事業ハ申ス迄モナク軍事
上、工業上、非常ニ重要ナ工業デアリマ
スノデ、何トカシテ此事業ヲ發達サセ
タイ、豫テ斯様ニ考ヘテ居リマシタ所ガ、
幸ニ大キイ電力會社ノ二三ノモノガ、
是非此仕事ヲヤッテ見タイ、斯ウ云フ計
畫ガ昨年來二三會社ニ起ッテ居リマス、
現ニ竹内君ノ御郷里デアル山梨縣ノ方
面ニ於テモ、其電力會社ガ低廉ナル電
力ヲ以テ九州ノ大東島ノ原料ヲ基礎ト
シテ、此精鍊ニ着手シタイト云フ計畫
ヲ立テテ、其設計モ略濟ンデ居ルヤウ
ナ形デアリマスカラ、ドウカシテ此事
業ノ成ベク立行クヤウニシタイ、ソレ
ニハ極ク微弱デアリマスケレドモ、關
稅ヲ据置イテ、其工業ノ成行ヲ見ルコ
トガ必要デアル、斯様ニ考ヘマシテ此
稅率ヲ据置イタ譯デアリマス

○竹内委員 今一ツ簡單ニ御尋致シマ
スガ、此「アルミニウム」ノ工業ガ日
本ニ起ラナイ原因トシテ、吾々ノ考ヘ
テ居リマスノハ、外國ニ原料ガアッテ、
日本ニハ外國ノ如キ原料ガナイ、ソレ
デ今御答ノ計畫シツアル事業ト云フ
ノハ、如何ナル原料ニ依ルモノデアリ
マスカ、ソレモ一ツ伺ッテ置キタイト思
ヒマス、ソレカラ農商務省時代カラ續
イテ是ガ研究ヲシテ居ル、又相當ニ御
考慮ニナッテ居リマス、恐ラク此御研究
ハ既ニ相當ナル報告ガ出來テ居ルト
思ッテ居リマスガ、此御研究ノ結果ニ依
リマスレバ、内地ニ於ケル原料デ十分
將來「アルミニウム」工業ガ立ッテ行
ク御見込ガ恐ラク付イテ居ルト思ヒマ
スガ、其邊ノ御見込ヲ試驗ノ結果カラ
伺ヒタイ

○永田委員 議事進行ニ付テ、先程カ
ラ商工大臣ノ出席ヲ求メテ居ルヤウデ
アリマスカラ、只今ノ竹内君ノ質問ハ
答辯ヲ保留シテ戴イテ、商工大臣ノ御
質問ニ移ッテ戴キタイ

○加藤委員長 竹内君ノ御答辯ヲ簡單
ニヤッテ下サイマスカ

○宮内政府委員 只今竹内委員ノ御尋
ニ御答致シマス、「アルミニウム」ニ
付キマシテハ、外國ニ於テハ「ボーキサ
イト」ヲ原料トシテソレニ依テ製造ス
ルト云フコトニナッテ居リマス、尤モ今
日ニ於テハ獨逸ニ於キマシテハ粘土
ヨリ之ヲ精鍊スルト云フ方法モ出來テ
居リマスガ、其報告ハ吾々マダ、得テ居
リマセヌ、政府ニ於テモ之ニ付キマシ

テハ十分注意ヲ拂ヒマシテ、先年來東京工業試驗場ニ於テ粘土ヨリ「アルミナ」ヲ製造シテ、ソレカラ「アルミニウム」ヲ取ルト云フ研究ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ハ山崎君ガ既ニ特許ヲ得テ居リマス、此「アルミナ」ニ依リマシテ、更ニ輕銀會社ガソレヲ電氣精鍊ヲ致シマシテ、餘程純分ノ高いモノマデ精鍊ガ出來テ居ルノデアリマス、其點ニ於テハ我國デハ先ヅ出來タト云ッテ宜カラウト思ヒマス、將來ニ於キマシテハ此精鍊ガ採算上有利ニナルヤウニ、「アルミナ」カラ「アルミニウム」ヲ精鍊スルト云フコトニ付テ十分研究致シテ居ル次第デアリマス、尙ホ先程政務次官カラ申サレタ燐酸焚土ヨリ「アルミナ」製造法ニ付テハ、理化學研究所ニ於テ一方ニ肥料ヲ取リ、其副產物トシテ「アルミナ」ヲ取リ、其「アルミナ」ヲ電氣精鍊ヲシテ「アルミニウム」ヲ取ルコトガ出來テ居ルノデアリマス、粘土ヨリ取ルノデアリマスカラ、「デアスボーア」ニ依ラズシテ——「ボーキサイト」ニ依ラズシテ、サウシテ之ヲ粘土ヨリ精鍊スルト云フコトガ發見サレテ居リマス、是ハ將來ニ於テ工業上ニ出現致スヤウニ、民間ニ於テハソレゾレヤッテ居ルノデアリマス、併ナガラ是ハ何様申上ゲルマデモナク、軍事上ニモ、工業上ニモ、非常ナル關係ヲ持ツモノデアリマスカラ、各社別々ニ致スノハ如何デアルカト存ジマシテ、過

般營業者ヲ一人々々呼ンデ意見ヲ叩イタコトモアルノデアリマス、將來ニ於キマシテハ是等ノ間ニ連繫ヲ取リマシテ、本工業ヲ成立スルコトニ努メタイト思ヒマス

○竹内委員 マダ私モ伺ヒタイコトガアリマスガ、只今ノ議事進行モゴザイマシタカラ、私ノ質問ハ保留致シテ置キマス

○山本委員 私ハ商工大臣ニ銑鐵ノコトニ付テ御尋シタイト思ヒマス、銑鐵ノ輸入税ニ關シテ印度トノ關係ニ付テ先日御述ベニナリマシタガ、此銑鐵ニ對シテハ關稅ハ當分引上ゲル考ハナイ、印度トノ關係ハ、關稅關係デ、或ハ印度ガ日本ノ綿布ニ對シテ重稅ヲ課スルコトニナルカモ知レヌ、併ナガラ當分ニ求メテ此方カラ戰ヲ挑ムト云フコトハ不利益デアアル、隨テ關稅ニ於テ銑鐵ニ稅ヲ掛ケルト云フコトハ差控ヘ、別ノ方法ヲ以テ鐵ノ保護ヲスル、ソレニ對シテハ大臣自ラ名案ヲ得テ、御言葉ノ上カラ見レバ不日議會ニ提出スルト云フ意味ニ拜聽致シタノデアリマス、銑鐵ハ申スマデモナク、製鐵ノ根本政策ニ觸レルニハドウシテモ銑鐵カラ起ッテ、鐵ニ進マナケレバ製鐵政策ノ根本ニ觸レタト云フコトハ出來ナイ、私共ノ見ル所ニ依リマシテモ、今日ノ日本ニ於ケル銑鐵ノ製造能力ハ其設備ニ於テ約百十萬噸内外ノモノガ出來、之ニ本溪湖及滿鐵ノ鐵ヲ加ヘレバ百四十

萬噸内外ニナル、此製造能力ヲ御調べニ依ルト僅ニ六十三、四萬噸ヨリ造ッテ居マス、サウスルト約半分ノ製鐵機關ハ商賣上ニ引合ノ爲ニ營業ヲ休ンデ居ルト云フノガ今日ノ有様デアアル、ソコデ或ハ關稅ニ依ルノガ宜イノデアアルカ、或ハ保護政策ニ依ルノガ宜イノデアアルカ、假ニ御話ノ如ク印度ノ狀況ヨリ別ノ方法デ製鐵ノ保護ヲ爲ストスルナラバ、關稅ニ依ラヌモノデアアルコトハ勿論デアアル、今此關稅戰ニ於テ印度ニ臨ムト云フコトハ不利益デアアルト云フナラバ、ソレニ代ルベキ保護政策ハ關稅ヲ引上ゲルト全ク同一ナル意味ニ於テ法案デナケレバ、其御趣旨ガ徹底シナイト思ヒマス、先達ノ御言葉ノ中ニ、其法案ニ觸レテ銑鐵ヲ保護スルニハ、銑鐵ト製鋼ト連絡シタ協同事業ニ對シテ保護スルノデアアルカ、其結果トシテハ銑鐵ヲ保護スル意味ニナルト云フコトニ承ツタ、サウ致シマス、先刻申上ゲマスガ如ク、銑鐵事業ガ不振ノ爲ニ設備ヲ持チナガラ半分ガ休ンデ居ルト云フ狀況デアアルニ拘ラズ、鐵ヲ製造スル機關ニ非ラザレバ保護シナイ、銑鐵其モノハ全ク政府ハ顧ミナイ、斯ウ云フ御趣旨デアアルカ、甚ダ此點ハ重大ナコトデアアルカ能ク承ッテ見タイト思ヒマス、之ガ第一點第二ハ此關稅案ヲ議會ニ御提出ニナツタノデアリマスガ、銑鐵ハ右ノ意味デ一ツ殘サレテ居ル、即チ現行率ニ依テ百斤十錢ト云フ率デ殘サレテ

居ルノデアリマスガ、今申上ゲマス如ク銑鐵其物ニ對シテ行フト云フコトノ保護ト、關稅改正トハ不可分デアルト思フ、故ニ此一點ガ殘ッテ居ルナラバ、ソレニ對スル具體案ヲ不可分のニ御提出ニナリ、サウシテ初テ關稅法ガ行ハレルモノト思ヒマスガ、此議會ニ御提出ニナルヤ否ヤ此二點ヲ先ヅ御伺シタイ○片岡國務大臣 第一ノ質問ハ銑鐵其物ハ製鐵事業ノ根本デアアルガ故ニ、此方ヲ忽セニシテハナラヌト云フ前提ノ下ニ、綜合的ニ即チ製鋼ト云フモノヲ標準ニシテ省令ヲ布クト云フコトニナレバ、銑鐵ハ自然漏レルモノガ出來ルデアラウ、ソレ故ニ不可分トシテ、別ニ銑鐵ニ對スル保護ノ方法ヲ立テナケレバナラヌト云フ見地ノ下ニ、第二ノ御質問ハ起ツタト思フノデアリマス、或ハ私ノ解釋ガ違ッタカモ知レマセヌガ(山本委員「其通り」ト呼フ)——此銑鐵ト云フコトヲ出發點トシテ、獎勵法案ヲ作ッテハ居ラヌノデアリマス、無論銑鐵其物ハ保護セラレルノデアリマスガ、礦石ヨリ起ッテ遂ニ鋼材迄統一スルモノヲ獎勵スル、此趣旨カラ獎勵法案ヲ議會ニ協賛ヲ求メル積リデ居ルノデアリマス、其理由ハ銑鐵ハ銑鐵トシテ作ル、ソレカラ鋼ハ鋼デ作ル、皆別々ニ工場ヲ設ケマスルト、ソコニ生産費ノ上ニ無益ノ費用ヲ要スルコトニナツテ、其結果鐵材ガ高クナルノデアリマス、御承知ノ通り製鐵事業其物ニハ、種々ノ副

產物ノ生ズルモノデアッテ、之ヲ繼續的ニヤルト同時ニ、其副產物ヲ收容スル設備ヲ致スコトニ依テ、製鐵其物ハ比較的生産費ヲ安クスルコトガ出來ルノデア、之ヲ別々ニ計畫ヲ立テルト云フコトハ、英國邊リデハ行ハレテ居ッタコトノヤウニ見受ケラレマスガ、今日鐵ノ競争上ヨリシテ、實験ノ結果、繼續的ニ一貫シタ施設ヲスルニアラザレバ、競争場裡ニ於テ非常ノ困難ヲ來スト云フコトヲ認メテ、ソレノ施設ヲ改良致シテ居ルト云フコトモ事實デアリマシテ、日本ニ於テモ銑鐵ハ銑鐵デ作り、サウシテ鋼塊鋼片等ヲ經テ、又別ニ色ミノ製造ヲスルト云フ風ニ工場ヲ設ケタ向ガ少クナイノデアリマス、ソコデ非常ナル不經濟ヲ見テ居ルノデアリマスカラ、此際礦石ヨリ始マッテ、銑鐵ヲ作り、引續イテ「スチール」迄ニ及ブト云フ施設ヲ爲サシメル爲ニハ、一ツノ獎勵法ヲ施行致セバ、銑鐵モ之ニ依テ保護ヲ得、鋼材其物モ經濟的ニ作り得ル、今日ノ製鐵ノ基本ヲ立テマスルニハ、此方針ニ總テノ工場ヲ向ケテ行クト云フコトニシナケレバナラヌト思フノデアリマス、併ナガラ今直ニ此方針ニ副ウヤウニハ一寸出來ヌト思ヒマスカラ、銑鐵ヲ作ッテ、サシテ引續イテ「スチール」迄ニ及ボスト云フモノニ向ッテハ、若干ノ年月ノ間、其施設ヲ完ウスルコトノ見込ノ付クモノニ對シテハ獎勵金ヲ得サセル、茲ニ銑鐵其物

ガ相當ノ保護ヲ受ケルコトニ相成ッテ、結局銑鐵業者其者モ困ラズ、延テハ「スチール」ヲ作ル者ニ至ッテモ利益スル、斯ウ云フ事ノ立前ニ致シテ居ルノデアリマス、或ハ他日ニ於テハ第二ノ御質問ノヤウナ事ノ必要ガ起ルカモ知レマセヌガ、只今ハ其方針デ各製鐵事業ヲ統一シテ行クト云フコトニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス

○山本委員 只今ノ御説明ヲ承リマスト、世界ニ於ケル製鐵事業ノ趨勢ハ、御話ノ通りニ進ミツツアルカラ、理想トシテハ、サウセネバナラヌモノデアルト私共モ考ヘマスケレドモ、ソレハ非常ナル理想デアリマシテ、日本ガ全ク製鐵事業ニ從事シテ居ラヌ、何等ノ設備モ有シテ居ラヌト云フコトデアッテ、マルデ新規ニヤルト云フナラバ、御説ノ如ク礦石ヲ基礎トシテ鋼鐵迄行クト云フ最モ進ンダ方法ニスルト云フコトガ、經濟上利益デアアルコトハ由迄モナイ、併ナガラ、今日迄ニ既ニ非常ナル資本ヲ投ジテ、而シテ銑鐵ガ既ニ百萬噸モ作り得ルカラ有スルト云フヤウニ設備ガ完全シテ居ルガ、ソレヲ半分ヅカ行ヒナイデ居ルト云フ現狀ニ鑑ミテ、又製鐵業其物ノ根本ニ立入ッテ銑鐵其物ヲ保護シナケレバナラヌト云フコトハ、私ハ絶對必要ナモノデアルト考ヘルノデアリマス、曾テ調べタモノヲ見マシテモ、世界ニ於ケル最モ大キイ製鐵國トシテノ亞米利加デスラモ、尙

ホ以テ輸入税ヲ課シテ居ル、獨逸ニ於テモ輸入税ヲ課シテ居ル、製鐵業ヲ基礎トシテ製鐵保護スルト云フコトハ、蓋シ鐵ニ關係シタ國ノ一貫シタル、政策ノヤウニ考ヘルノデアリマス、今ヤ日本ノ實情ハ只今申上ゲル通り、其設備ガ半分モ休ンデ居ルト云フ狀況ニ鑑ミテ、ドウシテモ關稅力或ハ他ノ方法デ之ヲ保護スル必要ガアリハセヌカ、政府ニ於テハ左様ニ御考ヘニハナラヌノデアリマセウカ、更ニ此意味カラ見テ、私共承ッテ居ル所デハ、此關稅改正ニ當ッテ、政府ハ噸七圓ト云フ關稅ノ率ヲ御改正ニナルコトヲ御提議ニナッタ、併ナガラ偶印度ノ問題ガソレニ關聯シタ爲ニ、銑鐵ニ七圓ノ課稅ヲスルト云フコトヲ御廢メニナッタ、サウシテ其代リニ只今商工大臣ガ御話ニナリマシタ一種ノ保護政策ヲ御ヤリニナラントスルコトニ御方針ガ變タト云フコトハ、過日ノ御言葉ニ依テ承知致シタノデアリマス、政府ガ既ニ銑鐵ノ輸入税ヲ七圓ニ引上ゲネバナラヌト云フ必要アリトシテ之ヲ主張セラレタノデアアルガ、外交上ノ對外關係ニ於テ、已ムヲ得ズ御廢メニナッタト云フコトナレバ、只今御話ニナリマシタ所謂礦石カラ「スチール」ニ至ルト云フ保護政策トハ、其間ニ大變ナ相違ガ起ッタノデアリマス、政府ハ十分ニ御研究ノ上ニ、銑鐵ニ對シテ一噸七圓ト云フ程度ノ關稅ヲ課シテ保護シナケレバ、外國品トノ競争ニ堪ヘルコトハ出來ナ

イ、日本ニ於ケル銑鐵業ヲ大ニ保護獎勵シナケレバナラヌト云フコトガ、商工省ノ御方針トシテ、確定シテ是ガ閣議ニ出タ、其銑鐵保護ノ御方針ト只今御述ベニナリマシタ製鐵事業ニ於ケル理想ノ方カラノ御議論トハ、私ハ其間ニ大ナル間隔ガアルコトヲ認メルノデアリマス、製鐵ノ事ハ只今申上ゲタ通りノ事デアアル、殊ニ印度ノ最近ニ於ケル競争狀態ハ、先日屢承ッタコトデアリマ

スガ、印度ニ於キマシテモ、銑鐵ニ對シテハ彼ガ一割ノ稅ヲ課シテ居ル、ソレヲ日本ハ僅ニ五十圓内外スル銑鐵ニ對シテ百斤十錢、即チ一圓六十錢程ノ稅ヲ以テ之ニ對スル、對策トシテ甚ダ辻褄ノ合ハヌ、遠慮ト申シマスカ何ト云フカ分リマセヌ、關稅ノ改正ノ第一ニ銑鐵ニ對シテ七圓ノ稅ヲ課ケル必要アリトシテ御出シニナル事柄、只今ノ御言葉トハ私ハ理解ニ苦ム點ガアリマ

ス、銑鐵ガ製鐵業ノ根本業デアアル極メテ必要ナル物デアアルト云フ點デ、今一應御説明ヲ承リタイ

○片岡國務大臣 今御質問ノ御言葉中ニ、銑鐵ノ關稅引上ヲ七圓ニ閣議決定ヲシテ居ッタモノガ、印度方面ニ種々ノ事情ガ起ッテ、之ヲ變更シタト御述ベニナリマシタガ、是ハ少シ違フノデアリマス、商工省トシテ關稅ノ案ヲ作りマシタ當時ニ於テ、サウ云フ意見ヲ持ッテ居ッタコトハ事實デアリマスガ、未ダ關稅會議ノ委員會ニ於テモ確定ヲ見テ

居ッタモノデハナイノデアリマス、愈關稅會議ノ委員會ヲ決定致ス前ニ於テ、今御話ノヤウナ事情モ起リマシタノト、日本ノ製鐵事業ヲシテ完全ニ導ク上ニ於キマシテハ、寧ロ獎勵法デ以テヤッタ方ガ、其目的ヲ達スル上ニ於テ良法デアラウ、斯ウ云フ事ヨリシテ獎勵方法ヲ御協賛ヲ願フト云フ順序ニナッテ來テ居ルモノデアリマス、強ヒテ違ヒハアリマセスガ、少シ具體的ニシテ見ルト、順序ガ右ノヤウナ次第デアリマス、固ヨリ銑鐵ニ相當ノ稅ヲ課シ、其他鋼材ニ對シテモ相當ノ關稅ヲ課ス、斯ウ云フ事ニスルノモ、是モ一ツノ見識デアラウト思ヒマス、又銑鐵ニハ別段ニ關稅ノ引上ヲ行ハズシテ、サウシテ此製鐵事業ハ首尾一貫シタ方法ヲ進メサセル爲ニ獎勵金ヲ遣ル、其獎勵金ニ依テ銑鐵ノ關稅ノ引上ヲ行ハズシテ、銑鐵其物ノ製品ヲ進メテ行カセルコトガ出來、又「スチール」製造ニ對シテモ障害ノ無イヤウニ造ル、斯ウ云フ事デアレバ、是モ一見識デアラウト思ヒマス、而シテ今政府ガ議會ノ協賛ヲ求メント欲スル獎勵方法ガ、御協賛ヲ得ルニ至レバ、現在ノ銑鐵ヲ拵ヘテ居リマスル部分ハ、何レモ之ニ依テ一大打撃ヲ受ケルコトハナイ、是カラ今銑鐵ヲ拵ヘテ居リマスル分量、各工場ノ能率一杯ニ働イテ、銑鐵其物ノ數量ガ增加スルニ至レバ、明年度ニ於テハ其獎勵金ハ増加ヲ要スルト思ヒマス、十

五年度ノ所ニ於キマシテハ、現在ノ銑鐵ノ製造ヲシテ居リマス者モ、別段之ニ依テ打撃ヲ被ルコトナクシテ、經營ヲ進メテ行クコトガ出來ル方法ニナッテ居ルノデアリマス、是ハ獎勵法ヲ此處ニ一絡ニナッテ居リマセヌ爲ニ、頗ル疑惑ヲ生ジマスルガ、大體政府ノ所信ハ左様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、若シ夫レ第一ニ申上ゲタ一見識ヲ行ハントスレバ、外交上種々ノ障害ノアル今日デゴザイマスカラ、寧ロ第二ノ方法ニ基クコトガ、鐵事業ニ對シテ一貫的ノ仕事ヲ進メサセルコトヲ獎勵スルノ利益ガ伴フノデアリマス、之ガ當面ノ方法トシテハ適當ナリト信ジテ居ルノデアリマス

○山本委員 只今伺ヒマシタ所ハ、最初ニ商工大臣カラ御話ニナッタコトヲ繰返シテ、其御趣旨ヲ承ッタノデアリマスソレニ依リマス、銑鐵其物ハ打撃ヲ受ケヌ、併ナガラ國ノ方針トシテ製鐵ヲ保護スルコトハ、國策トシテ、又日本ニ於ケル基本工業ノ一ツトシテ、保護シナケレバナラヌト云フコトハ、國の方針ニナッテ居ル、只今營業シテ居ル者ガ、商工大臣ノ御說デハ、十五年度ニ營業シテ居ル銑鐵業者ハ、此關稅改正及將ニ御提出ニナラウト云フ案ノ爲ニ打撃ヲ受ケヌト云フ御話デアリマスケレドモ、總テノ鋼類及機械類ニ對シテハ引上ゲルガ、銑鐵ダケハ一部ノ保護デ事業ノ打撃ヲ受ケルコトガナイト云フ御見解ハ、少シク私ハ理解ニ苦ムノデアリマス、今日ノ現在ノ多クノ日本ノ製鐵ト云フモノハ、輪西ニ致シテモ、釜石ニ致シテモ、兼二浦ニ致シテモ、製鋼ニハ關係シテ居ラヌノデアリマス、單獨ニ銑鐵ヲ造ッテ居ル、其銑鐵製造ノ設備ガ、百五十萬噸ノ中六十萬噸カ造ッテ居ラヌ、若シ銑鐵ニ保護ヲ與ヘレバ、礦石ハ今日ノ狀況デハ、支那カラデモ南洋カラデモ輸入ガ出來マス、此礦石ヲ輸入シテ、日本デ造ル能力ガアリ設備ガアル、ソレニ拘ラズ只今ノ御理想トシテハサウデアリマセウ、併ナガラ根本タル銑鐵ハソレハ抛ッテ顧ナイ、ソレカラ此改正ニ依テ銑鐵業ガ打撃ヲ受ケヌト云フ御話デアリマスケレドモ、保護シテ發達サセルト云フ意味合ノ國策ノ根本ニハ、餘程其處ニ矛盾ガアリハセヌカト思ハレマス、サウ致シマスト銑鐵其物ニ對シテハ保護ヲ加ヘヌ、此儘ニ置イテ宜シイ、斯ウ云フ御意見デアリマス

○片岡國務大臣 今ノ御言葉中ニゴザイマシタ輪西釜石兼二浦等ハ、相當「スチール」ヲ造ル迄ノ設備ヲ、完全無缺トハ申サレマセヌガ持ッテ居リマス、即チ其獎勵法ニ依テ獎勵金ハ受クルコトガ出來ルノデアリマス

○山本委員 サウスルト私ガ最後ニ承リタイノハ、銑鐵其ハ儘ニシテ、單獨ナリ銑鐵問題ニ對シテハ保護ノ上カラハ何等考慮スルコトハナイ、必要ナシ、銑鐵カラ關聯シテ製鋼事業ニ至マデノ保護ヲスルケレドモ、單獨ナル銑鐵問題ニ對シテハ保護ヲスルコトノ必要ヲ御認メニナッテ居ラヌト云フコトニ承知致シテ宜シウゴザイマス

○片岡國務大臣 銑鐵ヲ造リマシテ、其銑鐵ヲ「スチール」所請鋼材ニ用ヒルト云フ爲メ銑鐵ニ對シテハ、悉ク保護ハ受ケラレルノデアリマス

○山本委員 關稅ヲ引上ゲテ、一般ニ銑鐵ニ對シテ保護スルト云フ御趣意デアアル、關稅改正ヲ御評議ニナルトキニ、銑鐵ニ對スル關稅ヲ引上ゲルコトガ必要ダト商工省ハ御認メニナリ、且ソレガ御評議ノ結果デアルト承知シタノデアリマスガ、先刻御話ノ通り、其間ニハ少シク矛盾ガアルト云フ御話デアリマシタガ、今度ノコトニ依ルト、銑鐵ダケニ離シテ考ヘテ見マス、政府ハ願ミスト云フコトニナッタノデアリマス、關稅引上ノトキニ其必要ヲ認メテ、ソレヲ御評議ニナッタコトト違ッタイウニ考ヘルノデアリマス……

○加藤委員長 餘リ御繰返シニナルヤウデアリマスガ、モウ少シ……

○山本委員 極メテ重大ナ事デアリマスカラ

○加藤委員長 繰返シ過ギルヤウデアリマス

○山本委員 ソレカラ尙ホ之ニ關聯シテ關稅ヲ引上ゲラレナイ、保護ノ政策ニ依タト云フコトデアレバ、其關稅引

上ノ代リニナルベキ所謂政策、ソレデアルナラバ今少シ内容ヲ具體的ニ承リマシテ、殆ド密接ナ關係、關稅引上ノ代リニ其保護ノ案ガ出ルト云フコトデアリマスガ、御成案ガドノ程度マデ行ッテ居リマスカ分リマセヌガ、今少シク立入ッテ具體的ノ事ヲ承リ、且ソレガ此議會ニ提出サレルト云フコトマデ行ッテ居リマスガ、否ヤト云フコトモ承ッテ置キタイノデアリマス

○片岡國務大臣 返ス、モ申上ゲマスガ、銑鐵ノ關稅ヲ引上ゲル、其代リニ獎勵法ヲ布クト、斯ウ御解釋下サルコトハ、當局者ノ意思ト少シ違フノデアリマス、銑鐵ニ關稅ヲ引上ゲズシテ、銑鐵其物ノ製造ニモ非常ノ苦痛ヲ感ズルコトナク、隨テ製鐵其物ノ進歩發達ノ上ニ裨益ヲ與ヘル、所謂製鐵ニ向ッテ獎勵ヲスルガ、其製鋼ノ獎勵ノ中ニハ銑鐵モ含マシテ保護ヲ受クル、斯ウ云フコトニナルノデアアッテ、銑鐵ノ關稅ノ代リニ斯ウシタト云フコトノ御解釋ハ、銑鐵ニ關稅ヲ引上ゲルト云フコトガ前提トナッテ、其代リニト斯ウ御解釋ニナルノデアアリマスガ、サウ云フ意味デナクシテ、鋼製ヲ仕遂ゲサセナケレバナラヌ、ソレヲヤルニハ銑鐵カラ始ッテ一貫シタ仕事ニ獎勵ヲシテ行クト云フコトニナレバ、銑鐵モ利益ヲ蒙リ、製鋼モ利益ヲ蒙ル、サウシテ世界的競争場裡ニ立ッテ發達ヲ仕遂ゲラレル、斯ウ云フ見地カラ獎勵法ナルモノガ生レテ來ルノ

デアリマス、斯様ナ立論ノ仕方デアリマスガ、誤解ノナイヤウニ願ヒ置キタイと思ヒマス、單ニ銑鐵ダケヲ造ルト云フコトヲ獎勵シタクナイ、銑鐵ヲ造ルナラバ鋼モ造ル、續ケザマニヤルト云フコトヲ獎勵メタイ、斯ウ云フ所カラ來テ居ルノデアリマス、將來ト雖モ此意味ニ於テ此銑鐵ヲ造ルノハ即チ鋼ヲ造ル、此目的ノ爲ニ銑鐵ヲ造ルト云フ方ノ事ヲ獎勵シマスルガ、單ニ銑鐵ノミヲ造ルト云フコトハ、製鐵ノ根本方針カラ見テ、餘リ宜シキヲ得テ居ラヌト、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○山本委員 只今ノ獎勵案ノコトガ、極メテ密接ナ關係ヲ有ッテ居リマスノデ、御差支ナイ限ニ於テ私ノ質問ニ對シテ御答辯ヲ願ヒタイと思ヒマス

○片岡國務大臣 是ハ無論御協賛ヲ經ナケレバナラヌモノデアリマスカラ、祕密デモ何デモアリマセヌガ、マダ閣議決定ヲシテ居ラヌモノデアリマスカラ、此處デ公ニ申ス譯ニ參リマセヌガ、私案トシテ御目ニ懸ケルコトハ、今此處ニハ持ッテ居リマセヌガ、一向差支アリマセヌ

○山本委員 數日前ニ此關稅ヲ議スルニ當ッテ、外ノ國ノ生産費及日本ニ於ケル生産費、銑鐵及鋼類ニ互テノ御調べヲ願ヒマシタケレドモ、各國ニ於ケル生産費ハ調査ガ困難デアルト云フコトノ御話デゴザイマシタ、ソコデ固ヨリ關稅ノ改正ノ御方針御趣意ガ關稅ニ依

テ日本ノ産業ヲ保護スル、是ガ極メテ重大ナ問題デ、此生産費ノ銑鐵ト申シ、或ハ鋼類ト申シ、彼我ノ生産費ノ對照ト云フコトガ、蓋シ關稅改正ノ根本ニナルノデアリマス、銑鐵ハ印度ノ競争ガ激シイ、今日デモ私共承知シテ居ル所デハ沖着値段四十圓内外、之ニ若シ爲替ガ平價ニ復ス場合ニナレバ、更ニ一割内外モ安クナル、之ニ對抗スル日本ノ銑鐵ガ製造サレネバナラヌ、即チ其差額ガ關稅ニ依テ保護セラレル、若クハ他ノ方法ニ依テ、保護セラレル、更ニ鋼類ノ方ニ於キマシテモ、私共ガ承リマシタ所デハ、昨今歐羅巴大陸、獨逸ト云ヒ、若クハ「ルクセンブルグ」、白耳義ノ鐵ハ沖着値段デ云ヘバ、七磅内外、爲替ハ一志十片半前後ニ見マシテモ、沖着値段デハ七十三圓内外、是ガ只今申上ゲル通り若シ爲替ガ更ニ一割安イト云フコトニナリマスレバ、ソレガ六十六七圓ニモナラウト云フヤウナ相場ニナッテ居リマス、此値段ハ歐洲大陸ノ鋼類ニ對シテノ値段、殆ド不當ナ廉價デアリマスガ、先達商工大臣ハ此鐵ニ對シテハ不當廉價、或ハ他ノ方法ニ依テ之ニ向フ對答ヲ講ジル必要ガアルカモ知レヌト云フコトノ意味ノ御話デアッタデアリマス、吾々ガ此鋼類ノ輸入稅ノ改正ヲ議スルトキニ當リマシテ、此生産費ノ違ヒガ、即チ此稅率デアラネバナラヌ、所デ何故ニ歐羅巴大陸ガ此

數年間著シキ廉價デ賣ッテ居ル一ツノ原因ハ、獨逸ガ列國ニ向ッテ賠償ノ代リニ石炭ヲ渡ス、白耳義ニ渡ス、佛蘭西ニ渡ス、列國ハ此石炭ヲ獨逸カラ賠償金ノ代リニ引受ケテ、殆ド原價ナシニ之ヲ列國ノ製造所、殊ニ白耳義ニ於テハ御承知ノ通り礦質モ非常ニ良イモガ國立製鐵所ニ向ッテ、殆ド無償同様ニ獨逸カラ賠償金ノ代リニ這入ッテ居ル、是ガ最大原因デアアル、更ニ爲替關係ト相俟テ歐洲大陸ノ鐵ガ非常ニ安イト直段デ日本ニ這入ッテ來テ居ル、此安イト直段ハ一時ノ投資デハナカラウト思ヒマス、若シ是ガ一時的ノ「ダンピング」デアラナラバ、御話ノ如ク不當廉價或ハ一時的政策ヲ以テ對シナケレバナラヌノデアリマスケレドモ、今ノヤウナ事情ガ胚胎スルトスレバ、歐洲大陸ノ鐵ノ投資ハ蓋シ是カラ先キ何年ニモ互テ續イテ行クモノデアラウト思ヒマス、若シ左様ナ觀測ノ上カラ言フテ、世界ノ鐵ノ相場及日本ニ於ケル鋼類ノ競争ト云フコトヲ御考慮ニナレバ、此關稅改正率ヲ定メルニハ重大ナル原因トシテ考慮シナケレバナラヌト思フノデアリマス、鋼材ノ輸入率ヲ御評議ニナッタ時ニ、ソレ等ノ事ヲ主ナル理由ノ一トシテ御考慮ニナッタカ如何デアリマセウカ、又向フノ生産費ト日本ノ生産費、之ニ對スル其差額ガ即チ保護關稅デアアル、今日此度御提出ニナタル基礎ハソレニ基イタノデアリマセウカ、

私共ハ今日茲ニ頂戴致シマシタ製鐵所

ラ承リタイ

○片岡國務大臣 今御話中ノ石炭ヲ賠

フガ如キモノモ澤山アル、是ニ於テド

スカラ、是等ノコトハ今調査ヲ進メテ居

ノ收支豫算ヲ見テモ、一億四五千萬圓

價ニ只同様ニ受取ッテ云々ト云フ御言

ウシテモ會計法カラ變ヘテ、サウシテ

ル所デゴザイマスガ、改正ヲ致ス積リ

ノ金ヲ運轉資金ト共ニ投ジテ居ル政

業、其處迄ノ極端ナル考慮ヲ致シタト

己レノ働キ榮ヘテ現ハシ得ル、又現ハ

デ居リマス、是等ノ改正實行ト生産費

府ノ製鐵事業、是ガ殆ド利益ガナイ、大

云フ次第デモゴザイマセヌガ、大體ニ

シタ所ノモノハ自己ヲ利益スルト同時

ナケレバナリマセズ、又運賃ノ低減等

正十一年乃至十三年度ニ至ルマデノ表

於テ獨逸、佛蘭西、亞米利加、英吉利、是

ニ製鐵所其物ノ利益トナッテ其金ガ改

良ニ使ハレルヤウニ組織カラ變ヘテ掛

ニ依テ見マシテモ、僅ニ十三年度ニ於

等ノ製品ノ價ト比較シテ考慮ヲ致スト

ラナケレバ是ハイケナイ、斯ウ云フヤ

ウニ考ヘマシタ結果、會計法ノ改正モ

テハ八十六萬六千圓、十二年度ハ七十

云フコトハ、是ハ固ヨリ當然デアリマ

當議場ニ御協賛ヲ求メル積リデ居ルノ

出來ナケレバナラヌコト考ヘテ居リ

三萬圓、十一年度ハ一萬三千圓ノ利益

ス、併シ御説ノヤウニ日本ノ製品ハ是

ト比較シテ高ク付イテ居リマス、是ニ

ト云フコトニ力ヲ注ギマス以上ハ、其

デアリマス、政府ハ何等税金ヲ納メズ、

於テ之ヲ安クスル、即チ生産費ヲ減ズ

コトニ於テハ右申上ゲマスヤウニ製品

目的ヲ達スルコトハ出來ナケレバナラ

一億何千萬圓ノ資金ニ對シテ利子モ全

於テモ多少ノ低減ヲ求メナケレバナリ

ノ改良ト云フ事ト、ソレカラ生産費ノ

又道理デアルト自分ハ信ジテ居ルノデ

ク取ラス、銷却モナシ、銷却ナシ、無利

バナラヌ、ソレニハ鐵道ノ運賃ノ上ニ

節減ト云フ事ト、之ヲ閑却シテハナラ

アリマス

子、税金無シノ營業ヲ以テシテ尙且ツ

マセズ、又原料ヲ得ルニ於テモ成ベク

至ッテ佛蘭西方面カラ入ル鐵ハ非常ニ

刻モ一寸申上ゲタ通りデアリマシテ、

大正十一年乃至十三年度ニ於ケル全體

於テモ多少ノ低減ヲ求メナケレバナリ

ヲ困難デアリマス、然ルニ極ク最近ニ

故意ニ捨賣ノ爲メ「ダンピング」ノ爲ニ

ノ上カラ云ヘバ殆ド利益ナキ營業ガ出

ウニ副産物ナゾト云フモノヲ無視シテ

安價デアリマス、是ハ種々ノ事情モア

日本ヘ持ッテ來テ安ク賣ルノデアアルガ、

來テ居ル、ソレ程マデノ保護ヲ加ヘ、官

ラウト思ヒマスガ、最モ著シキモノハ

運賃デアアル、是等ニ對スル方法ハ、不當

或ハ全ク安イ生産費ノ爲ニ這入ッテ來

業トシテ一切ノ負擔ヲセズニヤッテモ

テ困難デアリマス、然ルニ極ク最近ニ

至ッテ佛蘭西方面カラ入ル鐵ハ非常ニ

刻モ一寸申上ゲタ通りデアリマシテ、

尙ホ之ニ對スルコトガ出來ナカッタコ

ウニ副産物ナゾト云フモノヲ無視シテ

安價デアリマス、是ハ種々ノ事情モア

日本ヘ持ッテ來テ安ク賣ルノデアアルガ、

トハ是ハ明カデアラウト思フノデアアリ

居ルト言ヘバ誤弊ガアリマスガ、ソコ

迄ニ工場設備モ整ッテ居ラズ、又研究ノ

足ラザル所ノモノガ幾分カアルノデア

マス、其上ニ只今申上ゲルヤウニ非常

迄ニ工場設備モ整ッテ居ラズ、又研究ノ

足ラザル所ノモノガ幾分カアルノデア

リマスカラ、是等ノ方面ニ對シテモ相

ナル廉價ヲ以テ販賣スル、日本ノ製鐵

足ラザル所ノモノガ幾分カアルノデア

リマスカラ、是等ノ方面ニ對シテモ相

當ノ考慮ヲ致シ、結局生産費ヲ餘程低

業ヲ保護スル故ニ、何處ニ出發點ヲ起

減スル、又低減スルコトガ出來ル、斯ウ

云フ所信モ持ッテ居ルノデアリマス、今

八幡製鐵所ノ所謂官營工場ニ對スル收

デアル、今ノヤウナ特殊ノ事情、實際ノ

減スル、又低減スルコトガ出來ル、斯ウ

云フ所信モ持ッテ居ルノデアリマス、今

八幡製鐵所ノ所謂官營工場ニ對スル收

製鐵ノ一番中樞トナッテ居ル製鐵所ノ

云フ所信モ持ッテ居ルノデアリマス、今

八幡製鐵所ノ所謂官營工場ニ對スル收

益等ノ御話モゴザイマシタガ、如何ニ

收支損益計算ノ上カラ見テモ引合ッテ

モ是ハ御述ニナッタ通りデアリマスガ、

ハ法ガ布カレテ以來未ダ實行ヲ見タコ

トハナイ、畢竟法ノ不完全ヨリシテ之

居ラヌ、即チ日本ノ製鐵ハ餘程保護シ

モ是ハ御述ニナッタ通りデアリマスガ、

ハ法ガ布カレテ以來未ダ實行ヲ見タコ

トハナイ、畢竟法ノ不完全ヨリシテ之

ナケレバ引合ッテ行カスト云フコトガ、

私僅ナ日數デハゴザイマシタガ四日間

ヲ實行スルニ方ッテ困難ヲ見ル結果デ

アルト思ヒマス、之ヲ實行シ易キコト

數字ノ上カラ考ヘラレルノデアリマス

私僅ナ日數デハゴザイマシタガ四日間

ヲ實行スルニ方ッテ困難ヲ見ル結果デ

アルト思ヒマス、之ヲ實行シ易キコト

ガ、政府ハ鋼類ニ對スル關稅率ヲ御評議

私僅ナ日數デハゴザイマシタガ四日間

ヲ實行スルニ方ッテ困難ヲ見ル結果デ

アルト思ヒマス、之ヲ實行シ易キコト

ニナル時ニ、ソレ等ノ事ヲ御考慮ニ置

私僅ナ日數デハゴザイマシタガ四日間

ヲ實行スルニ方ッテ困難ヲ見ル結果デ

アルト思ヒマス、之ヲ實行シ易キコト

イテ是等ノ率ガ生ジタノデアリマセウ

私僅ナ日數デハゴザイマシタガ四日間

ヲ實行スルニ方ッテ困難ヲ見ル結果デ

アルト思ヒマス、之ヲ實行シ易キコト

カ、是ハ根本ノ基礎觀念デアリマスカ

私僅ナ日數デハゴザイマシタガ四日間

ヲ實行スルニ方ッテ困難ヲ見ル結果デ

アルト思ヒマス、之ヲ實行シ易キコト

見マスト全ク生産費ガ安イ、運賃ノ安
イコトモ無論一ツノ理由デアリマス
ケレドモ、生産費其モノガ安イ爲ニ日本
ノ市場ヲ脅威シテ居ルノデアルカラ、
今關稅改正ヲスル時ニ當ッテハ、先ヅ以
テ一番ノ強敵ニナッテ居ル此大陸ノ鐵
ノ値段ヲ目安トシテ、之ヲ防ギ得ル關
稅デナケレバ保護ニナラヌヤウニ考ヘ
ルノデアリマスガ、其處ガ私共ト少シ
只今商工大臣ノ御述ニナリマシタ所ト
ハ違フ、歐洲大陸ノモノハ安イカラ不
當廉賣デ防グト云フガ、私ハ生産費其
ノモノガ安イノデアルカラ關稅デ防グ
ノガ當然ト思フノデアリマスガ、一時
的ノモノデアアル、「ダンピング」ノモノ
デアアル、即チ不當廉賣ヲシテ居ルノデ
アルカラソレヲ防グ方法ヲ講ズルノデ
アル、關稅ニ依テソレヲ防グノハ當條
ラヌト云フ御意見デアリマセウカ念ノ
爲ニ伺ッテ置キマス

○加藏委員長 正午デアリマスカラ是
デ休會致シマス、サウシテ午後一時カ
ラ引續キマス……
「今日ハ豫算ノ本會議デスカラ
午後ハ御廢メヲ願ヒタイ」ト呼
フ者アリ」
○加藤委員長 ソレデハ明日ハ御勉強
ヲ願フト云フ條件デ今日ハ散會致シマ
ス

午前十一時五十六分散會

○片岡國務大臣 今私ノ申上ゲタコト
ト根本ガ混同シタカト思ヒマスガ、昨
今佛蘭西アタリカラ輸入スル鐵ガ非常
ニ安イト云フコトハ昨今ノ事情デアリ
マシテ、運賃等ヲ非常ニ引下ゲタノデ、
ソレ故不當廉賣云々ト申上ゲタノデア
リマスガ、現在ノ狀況ニ當ラザル狀況
ニ對シテハ、此關稅デ以テ日本ノ製鐵
其モノハ進歩發達ヲ妨ゲラレルモノデ
ナイト云フ、相互ノ研究ノ結果此關稅
法ノ協賛ヲ求メテ居ルモノデアリマ
ス

大正十五年二月二十三日印刷

大正十五年二月二十四日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社